

大嶋和雄 (1989) 第四紀の古気候から類推される気候変動。
 二酸化炭素問題研究講演会講演要録集, 工業技術院産
 業公害研究総合推進会議, p. 22-31.
 リチャーズ, P.W. (1974) 熱帯降雨林 (井上 浩訳). サイ
 エンス, vol. 4, no. 2, p. 55-65.
 鈴木秀夫 (1978) 森林の思考・砂漠の思考. NHK ブックス
 312, 日本放送出版協会, 東京, 222p.
 高橋浩一郎・岡本和人 (1987編) 21世紀の地球環境—気候と生
 物圏の未来. NHK ブックス 525, 日本放送出版協
 会, 東京, 225p.
 ウッドウェル, G.M. (1978) 森林の減少と二酸化炭素の増加
 (北野 康訳). サイエンス, vol. 8, no. 3, p. 20-31.

〔新聞記事〕

朝日新聞: 桜蘭を望む街で. 1988年7月3日—7月8日.
 朝日新聞: 桜蘭周辺の自然. 1988年10月26日—11月10日.
 朝日新聞: 私たち自身の手で地球を汚していないか. 1989年
 4月25日.
 朝日新聞: 地球をむしばむ酸性雨. 1989年5月29日.
 毎日新聞: 熱帯雨林で何が起きているか. 1989年6月13日—
 6月20日.
 毎日新聞: 記者の目「熱帯雨林並々なぬ覚悟を」. 1989年7
 月14日.
 毎日新聞: 危機の現場から. 1989年7月26日—8月2日.

新刊のお知らせ

「石油地質・探鉱用語集」

石油技術協会編

この度石油技術協会より上記の本が出版されました。大きさはB6版(約18cm×13cm) 318ページ(約1.9cm)でカバンのなかに入れても机の上においても場所をとらない上に大変使いやすいハンデー・タイプです。本用語集はみかけは小さいにもかかわらず多くの人の協力と努力によってできあがった価値のある大変パワフルな一冊であります。石油鉱業に関連する人の実用の書・座右の書としてはもちろんのこと地質学一般に興味のある人にとっても大変興味ある読み物・啓蒙書として役に立つのではないかと考えられるのでここに紹介します。本書の主な特徴は以下の通りです。

- 1) 収録した語数は1,552語で 堆積学(碎屑岩及び炭酸塩岩)・貯留岩物性・物理検層・物理探鉱・石油地球化学・石油地質学・古生物学・地質年代学・鉱物学・岩石学・リモートセンシング・構造地質学・海洋地質学・グローバルテクトニクスなどおよそ石油鉱業に関連するあらゆる分野の用語が選択・収録されている。
- 2) 上記の専門用語の他に 世界の油田(194油田)と堆積盆地(114盆地) 石油探鉱に関連の深い地層や地域などを説明する固有名詞の用語が加えられており 本書の一大特徴をなしている。これらの説明にあたっては本邦の石油鉱業界の経験と知識・情報が大いに活かされているといえる。
- 3) 付録として 世界の堆積盆地・油田分布図 地質時代区分表 地層対比表 堆積環境説明図 サイスマック・ストラティグラフィの概念図 世界の研究所一覧などの図表類がつけ加えられており 本文の解説を助けるのに役立っている。
- 4) 各項目の見出しはすべて英語になっており 従って

配列もアルファベット順になっている。これは 固有名詞の項目が多いのと関係しているのであろう。もちろん 英語の見出しの後にはその日本語訳がついている。索引もすべて英語で引くようになっていいる。索引には 見出しの用語はもちろんのこと 各見出しの解説の中でのみ用いられている用語も載せてあり 読者にとって大変便利ようになっていいる。

5) 本用語集の執筆は 石油開発会社や研究機関の第一線で働く若手ないし中堅の技術者と研究者68名による記名執筆であり 特に石油の探鉱に直接タッチしている石油開発会社の技術者が多数参加しているのが 本書の一大特徴であるといえる。各項目はやさしくかつ簡潔に記述されていることから 大変読みやすい解説となっている。また更に詳しく知りたいときには その項目の執筆者に直接問い合わせることもできよう。

本書の価格は 一冊2,700円である。購入を希望する場合には 石油技術協会事務局(〒100 東京都千代田区大手町 1-9-4 (経団連会館) 石油鉱業連盟内, TEL. 03-279-5841 FAX. 03-279-5844) まで 必要部数・氏名・送り先住所を明記のうえ はがきでお申し込みください。一度に5冊以上お申し込みの場合には 送料は無料になるとのことです(ただし 同一グループの場合には 1回限りとのことです)。一冊の場合の送料は260円で 一冊増すごとに約50円加算されます。支払いは ます。領本とは別個に送られてくる請求書により銀行振込となり 収書が必要な場合には 振込用紙にその旨を宛名 指定金額とともに明記して欲しいとのことです。更に詳しいことがお知りになりたいときは 上記に直接問い合わせるとよいでしょう(燃料資源部 徳橋秀一)。